

南アルプスにのぼったよ

小・2 月東 りょうま

ぼくは、夏休みに長野けんにある南アルプスの「かいこまがたけ」という山に、お父さんと、お父さんの友だちと、その子どもの四人でのぼりました。お父さんたちは、よく山にのぼっています。ぼくも大きくなったので、はじめていっしょに高い山にのぼるようになりました。かいこまがたけは、ひょう高二千九百六十七メートルの山で、日本の中でも高い山です。

夜の十時に家を出ました。このころのぼくは、どんな山かな、楽しみだなと思っていて、あんなにたいへんな山だと知らずにわくわくしていました。

朝の五時ごろについて、山の入り口までバスでいどうしてから、ぼりはじめました。入り口についた時は、山のちよう上が見えませんでした。はじめは、林みたいになっていました。のぼっていくと、つぎは岩がありました。くさりをつかって、あぶない岩をのぼって行きました。どんどん上上がったたり、下りたりしました。いくつか山をこえたら、大きい山が見えました。お父さんに、

「あの雲のところまで行くぞ。」
と言われたので、ぼくは、

「えー。あそこまでのぼるの。」

とびっくりして言いました。つかれるし、いやだなとも思いました。

でも、お父さんが、

「あそこまでのぼったら、たっせいかんがあるぞ。」

と言ったので、それならがんばってのぼってみようと思いました。のぼっている時に一ばんたいへんだったことは、山のちよう上がなかなか見えなくて、いつまでのぼるの、とずっと思っていたことです。

かんどうしたこともありましたが、それは、ちよう上にたどりついた時です。ちよう上まであと少しのところは、道がけわしいし、せまいところも、すぐよこがけになっているところもありました。その道をすすみ、やっとちよう上についた時、上から見たけしきはすごかったです。雲が近くて、ぼくはこんなにのぼったんだなと思いました。お父さんといっしょに下から見ているあの雲のところまで来ることができました。お父さんと、

「すごいじゃん。」

と言いながら、二人であくしゅをしてしゃしんをとったのが思い出です。お父さんは、

「りょうまが、もうむりと弱音をはきながらも、お父さんより前をいっぼいっぼがんばるすがたに、かんどうした。」

と言ってくれました。
下りる時は、すべりやすくておちそうで、ちよつと楽しくてちよつとこわかったです。のぼるのに四時間、下りるのは三時間半かかりました。早く帰って、お母さんに自まんしたかったです。

帰りに、近くにあるおんせんに行つて、みんなでつかれをとりました。ろてんぶろにつかると、山のぼりのじごくのような時間がかから、天国にかかりました。大人たちはつかれきっていました。ぼくたち子どもはおよいではしゃいでいました。近くにとんできたハ

チにおゆをかけてあそべるほど、よゆうでした。

おんせんに入ってすつきりした後は、がんばったごほうびに、セブンティーンアイスを買ってもらいました。このアイスは、ぼくの家ではがんばった時にしか食べられない、とくべつなものです。ぼくは大よろこびで、何あじにしようかととてもなやみました。三分くらいなやんで、ソーダフrootにきめました。

帰りの車は、つかれていたのぐつすりねむっていて、四時間の道のりはあつという間に家につきました。お母さんは、

「よくがんばったね。」

とにっこりとぼくをむかえてくれました。

今回の山のぼりでぼくは、つらかったけど、さい後まであきらめずにごんばることをけいけんしました。自分でも、すごいほうけんでした。かいこまがたけは、のぼった人にしか分からない、すごい山でした。お父さんは、ふじさんと同じくらいすごい山だったと言っていたので、いつかふじ山にものぼってみたいです。